



巨大なエキスポビジョンいっぱい、世界中の人々の笑顔が映し出されている。眺める人たちの顔もほころんでいる。愛・地球博(愛知万博)の会場で、繰り返された光景である。

1805日間の期間中、2万人が映し出された。笑顔の写真に手書きのメッセージを添えて、ポスターにして展示する「メモリー(幸せ)プロジェクト」に取



万博の廃棄用段ボールで写真集をつくる水谷さん

万博「子どもの笑顔」手作り写真集

り組む名古屋出身のアーティストレクター水谷孝次(54)が、5大陸23か国を半年がかりで回り、撮影したものだ。

大学時代は音楽に明け暮れた。結成したフォークグループは地元で人気となり、学園祭にレクター水谷孝次(54)が、5大陸23か国を半年がかりで回り、撮影したものだ。

は地元で人気となり、学園祭にレクター水谷孝次(54)が、5大陸23か国を半年がかりで回り、撮影したものだ。

務所や写真スタジオで働きながらデッサンや撮影技術を学んだ。コンクールへの出品と落選を繰り返す中で力を養い、1976年にワルシャワ国際ポスタービエンナーレで特別賞を受賞。実力が認められ、横尾忠則

を抱えた。収入も急増した。だが次第に、企業への要請を受けて加えるだけの作品づくりが満足できなくなった。「もっと自身の人間を表現したい。魂を込めて人と接し、笑顔に触れたい」。名前が売れ、仕事が増

らを輩出した著名なデザイン会社に採用された。

仕事は多忙を極めた。大手企業のポスターなどを次々に任せられたが、十分な睡眠時間も取れず、胃に穴が開いた。6年後、「本当にやりたい仕事」と独立、事務所を構えた。ちょうどバブル期に差し掛かるころで、ポスターや包装デザインの注文が次々に舞い込み、従業員20人

えるほどに、そんな思いを抑えられなくなった。

何がしたいか、何ができるか。自問しながら仕事を続けていた99年、訪れたアメリカで、偶然バスで一緒になった3人の少女の笑顔に引きつけられた。笑顔の中に「究極の幸せ」を見た思いがし、水谷はひたすらシャッターを切った。

半年後、その笑顔を写真集にまとめて出版した時から、プロジェクトは始まった。阪神大震災を経験した神戸で、同時テロから立ち直ったニューヨークで、あらゆる年代、人種の男女の笑顔を撮影し、ポスターにして展示した。元気を与えてくれる、と好評だった。

水谷は今、万博や各国で出会った子どもたちの写真集を手作りで制作している。パビリオンなどから出る廃棄用の段ボールを再利用し、3000部出版する。「子供たちの笑顔は、地球の未来を明るくする。いつか60億人の笑顔を撮影し、世界中をメリーといっぱいしたい」。人を幸せにする笑顔の力を、水谷は信じている。

(敬称略、田中宏幸)